

# ほんべつ



いいひと いいまち いきいき ほんべつ

2

## 伝えたい

## 平和への思い

本別空襲の日の7月15日を中心に  
語りつく活動が行われました

本別町戦没者・戦災死没者追悼式

## 4 平和への誓い新たに

5

## 第五十七回十勝管内PTA研究大会本別大会兼 第四十八回本別町PTA連合会研究大会

## 6 夜でかけナイト

## スターフェスティバル

## 国民年金コーナー

8

## 第二回本別町農産物加工施設あり方検討会

どう生かす加工施設

9

## 第六次本別町総合計画

Part15

- ハロー農業大学校……………10
- マイタウン……………11
- みんなの健康・銀河ホットライン……………14
- ご寄付ありがとうなど……………15
- 本のある暮らし・わたしたちのまち……………16



### 本高祭仮装パフォーマンス

本高祭名物の仮装パフォーマンスが7月17日、役場前町民憩いの広場で行われました。華やかな衣装を身につけた6クラスが、練習を重ね息の合った素晴らしい踊りを披露。音楽に合わせた躍動感ある演技で大勢の観客を魅了しました

# 伝えたい 平和への思い



資料館特別展 戦後六十五年

わが町の七月十五日

## 沖繩戦とひめゆり学徒隊

何も知らされず、戦地へ送られた  
当時十五歳から十九歳だった女子生徒たち。  
戦地に到着したとき、いったいどんな気持ちだったろうか。  
脳裏には生きて帰れないかもしれない。  
家族や恋人、友達のこと浮かんだに違いない。  
戦地に送られた女子生徒の家族は、どんな気持ちだったろうか。  
きつとただ、無事を祈ったに違いない。  
本別町民五十二人が亡くなった沖繩戦では、約十八万九千人の日本人が戦死。  
その中には、今回のテーマである陸軍病院に動員された  
ひめゆり学徒隊の教師、女子生徒百三十六人が含まれています。  
私たちは、そんな悲劇しか生まない戦争が二度と繰り返されないよう、  
次の世代へとしっかりと語りついでいかななくてはなりません。



オープニングセレモニー

### 資料館 特別展

戦後六十五年  
わが町の七月十五日「沖繩戦とひめゆり学徒隊」が七月一日から三十一日まで、歴史民俗資料館で開催されました。  
展示会初日の七月一日には、「オープニングセレモニー」が町体育館で開かれ、高橋正夫町長が「二度と戦争を起こさないために、わが町の大空襲と先人から受け継いだ志、平和と命の大切さをしっかりと受け止めてほしい」とあいさつ。続いて、澤田満教育長が、展示説明を行った後、仙美里中学校（式見祝賀校長・二十七人）の生徒による、平和へのメッセージの朗読や仙美里中学校生徒と本別混声合唱団（大沼順子代表・六人）による「さとうきび畑」の合唱などが行われました。  
期間中は、本別空襲の被災状況などの写真とともに「ひめゆり平和祈念資料館」と「沖繩県平和祈念資料館」の協力を得て、「沖繩戦」と沖繩戦で負傷した兵隊の看護などにあたる「ひめゆり学徒隊」の遺影や戦争体験者が描いた絵などの貴重な資料を紹介したほか、本別中央小学校五、六年生が作成した平和へのメッセージなどを展示した。

### 戦争はもうまっぴら

7/13 本別中央小学校六年生 五十一人  
満山さんは、大きくなったら兵隊になれと育てられ、二十二歳で沖繩戦に参戦。  
昭和二十年四月一日にアメリカ軍が沖繩に上陸。そのときの様子を「沖繩の海が軍艦で埋めつくされるくらいすごかった」と語りました。  
銃撃戦の中、アメリカ軍の砲弾が近くに落ち、左目を失明。仲間が背負われ医師のいる野戦病院に運ばれたが、日本軍は、壊滅状態に陥ると、急ぎよ野戦病院を解散。歩けないなどの重傷兵には「捕虜になるなら死ぬ」と毒薬を渡したと話したほか、アメリカ軍の攻撃を「この世の地獄」と例え、武器、弾薬、食糧の全てが不足した、追い詰められた精神状態であったと語り



また、隠れていた洞窟で、同僚が目の前で死んでいく中、仲間が迎えに来ることを信じて、生き延びることを決心したことや、日本軍が無条件降伏したことを知らなかったため、洞窟に入ってきたアメリカ兵を撃ってしまったことについても触れ、四、五年前から、「なぜ撃たなければならなかったのか」と現在の複雑な心境も語りました。  
最後に、「人が人を殺し合わない世界にしてほしい。戦争はもうまっぴら。人間が人間を殺す、ばかなことをしてはいけない」と訴えました。

### 二度と戦争を繰り返してはいけない

7/1 仙美里中学校 二十七人  
7/15 本別中央小学校五年生 四十三人  
7/15 勇足小学校五、六年生 十五人

細岡さんが本別空襲を体験したのは十四歳。その空襲で二年上の兄と恩師の教頭先生を亡くすという辛い経験をしました。その日は、月に二回の登校日。細岡さんは、ラジオもテレビもなかったため、空襲警報が出ているのを友達から聞かされ、避難を開始。避難の途中で、飛行機が頭上に現れ急降下し、爆弾



も、二度と戦争を繰り返してはいけないと語り掛けました。

薄れ行く

る

歴史を

沖繩戦を経験した満山凱文さんと本別空襲を経験した細岡幸男さんが、社会科学や総合学習の授業で図書館を訪れた町内の小、中学校の生徒を前に、戦争の悲惨さについて語りました。



満山凱文さん(85)  
上士幌町



細岡幸男さん(79)  
美里別西上

語

# 本別町戦没者・戦災死没者追悼式

## 平和への誓い新たに

7月15日



戦争による犠牲者の方々のめい福を祈り、恒久平和を願う「本別町戦没者・戦災死没者追悼式」が七月十五日午前十時から、遺族、来賓など約六十人が参列し、向陽町のふれあい交流館でしめやかに執り行われました。本町では、日清・日露・第二次世界大戦の戦役で二九九人が、終戦直前の昭和二十年七月十五日には、米軍機による本別空襲で四十人が犠牲になり、十勝最大の被災地となりました。追悼式は午前十時に始まり、全町民に黙とうを呼び掛けたサイレンが吹鳴され、参加者全員で黙とうを捧げました。高橋正夫町長が「すでに六十有余年の歳月が矢の如く過ぎましたが、時の流れは悲惨な戦争の記憶を風化させ、平和の尊ささえ忘れさせようとしています。現在もなお、武力による紛争が続いている今こそ、真剣に恒久平和の実現に努めるとき。あの悲惨な歴史を二度と繰り返さないよう町民と共に決意を新たにすることが、今に生きる私たちに課せられた責務であり、最上の勤めです」と式辞を述べ、笠原求町議会議長、衆田達一社会福祉協議会会長、政木高治本別町遺族会会長らが追悼の言葉を贈りました。続いて、参加者全員が献花を行い、犠牲者へのめい福を祈り、平和への誓いを新たにしました。



参加者全員による黙とう



# 第五十七回十勝管内PTA研究大会本別町PTA連合会研究大会 第四十八回本別町PTA連合会研究大会



開会式

「十勝の教育風土に根ざした、人間性豊かな子どもを育てるPTA活動を推進しよう」をテーマに、第五十七回十勝管内PTA研究大会本別町PTA連合会研究大会（十勝管内PTA連合会主催）が七月十九日、本別中学校を会場に管内PTA会員約五百人が参加し開催されました。

開会式で、廣澤至位十勝管内PTA連合会長が「子どものいじめや不登校、児童虐待、学力・体力の低下などの課題は、学校だけではなく保護者、地域が総力をあげて解決しなければならぬ。本大会での会員相互の活発な情報交流の成果をそれぞれの地域、学校に持ち帰り、今後の活動に生かしてください」とあいさつ。

午前は、「学校教育がこ



講演する坂本さん

どもたちに果たす役割」「家庭教育が子どもたちに果たす役割」など六つのテーマに別れて分科会が実施され、「子どもはほめることで、認められると感ずる」「子育ては家族全員で行い、さらに地域全体で見守っていくことが必要 などとテーマに沿って活発なグループ討議が行われました。

午後からは、詩人作家の坂本勤さんが「子どもの心を守る」と題して講演。その中で、子どもには「しなさい」は言わないほうがよいと述べ、「しなくてくれ

たらうれしいな。くしたほうがよいと思ふ」などと言いつつ、変えることで、子どもにも自分で考える時間を与えるとアドバイスしたほか、「あなたがいたから助かったと、子どものたくさんの方に気づける親であってほしい」「君がいたから良かったと、小さなことにも気付ける教師であってほしい」とエールを送りました。





# 夜でかけナイト

## 夜の街に町民の笑顔

商店と町民の触れ合いの場として定着した「夜でかけナイト」(実行委員会主催)が七月二日、北一丁目から北五丁目商店街で開催されました。

(秋寛会長)によるパードテールの無料配布、アースホール前では「ストリートライブ」などのイベントも行われ、会場を一層盛り上げました。会場には子どもから大人まで多くの人が訪れ、談笑しながらビールを飲んだり、食事をしたり思い思いの夜を楽しんで過ごしました。次回は九月の第四金曜日に開催される予定です。

# スターフェスティバル

### 飲んで! 食べて! 楽しんで!

第十八回スターフェスティバル(実行委員会主催)が七月十七日銀河通り歩行者天国で開催され、好天にも恵まれ、会場内は大勢のお客さんでぎわいました。特設ステージでは、おやじバンドや歌謡ショーなどが催され、クレープ、かき氷など食のコーナーも行列ができるほどの盛況ぶり。やきとりやフランクフルトは午後八時には完売しました。豪華景品が用意された恒例のジャンボビンゴゲームも盛り上がり、数字が発表されるごとに会場から大きな歓声が上がっていました。



# 国民年金

その100

## 国民年金保険料免除申請制度

経済的、失業等の理由などから保険料を納付することが困難な場合は、所得などに応じて保険料の全額または一部が免除となる「免除申請制度」のご利用をお勧めします。免除世帯の構成人数等により免除区分を決定する際の所得制限額が異なりますので、詳細はお問い合わせください。

### 対象となる人

- 所得が一定以下の人
- 天災、失業等の理由により保険料を納めることが困難な人

### 免除となる期間

免除期間は、7月から翌年の6月までです。原則として毎年度7月に免除申請が必要ですが、全額免除については申請時に「継続申請」を希望すると、翌年度からは本人の申請手続きが不要になります。

### 免除区分

免除区分		納付額(月額)
全額免除		なし
4分の3免除	4分の1納付	3,780円
半額免除	半額納付	7,550円
4分の1免除	4分の3納付	11,330円

### 保険料の納め忘れにご注意ください!

免除が認められても、全額免除以外の人は減額された保険料の納付が必要です。納め忘れるとその期間は未納扱いとなり、障がいや死亡といった不慮の事態が発生した場合に、障害年金や遺族年金などを受けることができなくなります。

詳しくは  
住民課戸籍年金担当へ  
☎22-8128

計画策定のキーワードは

「人材育成」「産業・雇用」  
「安心・安全・健康」

新しい本別町のまちづくりの姿(イメージ)



産業・雇用(あらゆる場での仕事づくり)は木の「幹」

本町の地域資源を最大限活用し、あらゆる場での仕事づくりを進めることにより「産業・雇用」を拡大することを木の「幹」と例え、本町の産業振興を重点施策と位置づけます。

- 地域資源を最大限活用した産業の振興
- 農商工連携を柱に新たな産業興し
- 高速自動車交通網の利活用
- 高速通信網の利活用

先に実施した町民アンケートにおいて、多くの人から「就労の場の拡充」「若者の定住促進のための施策」などの意見が寄せられました。

このことは、このまちに住み続けるため、生きていくための「糧」として、働く場の確保が重要であることを表しています。

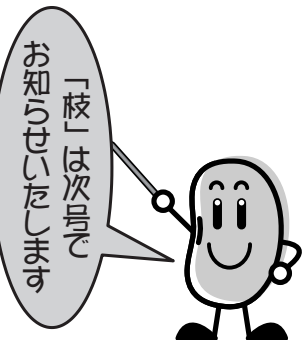
新しい計画では、「産業・雇用」を重点課題ととらえ、本町の特性を生かした農畜産物の生産と、それらを素材として加工することによる付加価値の創出。それを流通・販売するなど、第1次産業の農業とこれに関連する第2次・第3次産業に係る事業を融合させるといった、農商工が連携した総合的かつ一体的な産業化を進めることで新たな雇用の拡大と所得の向上を目指しています。

また、現在整備中の高速通信網、さらに、道東道が平成23年度に十勝と札幌・道央圏との間で全面開通、釧路圏・網走圏との接続を見据え、交流人口の拡大や地域経済の活性化に結びつけていく施策も展開します。

シリーズ  
第六次本別町総合計画

平成二十一年五月の第五次総合計画策定の諮問から一年が経過、本別町総合計画策定審議会(会長 今野公司)が、これまでの間、協議してきた内容を中間報告としてまとめました。

Part15



総合計画についての問い合わせ

企画振興課 企画・生涯学習担当 ☎ 22-8121

どう加工  
生かす施設

第一回本別町農産物加工施設  
あり方検討会

町民にあつて良かったと思われる施設を目指して

道の駅「ステラ★ほんべつ」南側に、町づくり交付金を活用し今年度設計、来年度完成を目指す「農産物加工施設」の具体的な整備内容について検討する、第一回本別町農産物加工施設あり方検討会が六月三十日、役場で開催されました。

高橋正夫町長から、関係団体と一般公募合わせて十三人の委員へ委嘱状が手渡され、「この加工施設が、農畜産物の付加価値を高め、食文化、農商工連携、食育などの拠点施設になるよう努めたい。建物だけではなく、中身に魂を入れた施設にするため、みなさんのご指導ご支援をお願いします」とあいさつ。続いて、互選により会長に三枝金作さん、副会長に河合篤史さん、篠原寿美江さんが選出され、三

枝会長から「施設の建設、運営には、農商工の連携が重要になってくる。みなさんのご協力をお願いします」とあいさつがありました。

事務局から、平成十九年度から進められている農産物加工施設建設に至るまでの経過説明がされたあと協議に入り、委員からは、建設そのものに対する厳しい発言もありましたが、「建設する以上は、意見を出しあい町民にあつて良かったと思われる施設を目指す」ことで合意。また、加工はできるが販売には制約があるなどの課題もあることから、同会では今後、加工と販売を手掛ける先進地視察の実施も行いながら、九月上旬をめどに進むべき方向性を検討していくことを確認しました。



No.	職	氏名	所属
1	会長	三枝金作	本別町自治会
2	副会長	河合篤史	連合NPO法人
3		篠原寿美江	女性JA本別町
4	委員	小川睦子	女性JA本別町
5		小澤 静	北海道上農
6		柏崎秀行	一般公募
7		佐藤隆史	
8		前田茂雄	
9		三井玲子	女性JA本別町
10		茂古沼 裕	青年本別町商工会
11		森住賢宏	青年JA本別町
12		吉川勤志	本別町観光協会
13		我妻龍雄	十勝本別町イマメの会



本別町農産物加工施設あり方検討会委員名簿



## いざという ときのために 6/28

南1丁目自治会(岡田清治会長)による防災研修会が6月28日、南地区集会所で開催されました。本別消防署職員2人が講師となり、「日射病」「熱中症」の予防についてと、人形を使った心肺蘇生法やAED(自動体外式除細動器)の使用方法を説明。参加した26人は、講師の話に耳を傾けながらいざというときの救命救急法について学びました。



## 雨が降っても大丈夫 7/3

7月3日、株式会社岡崎組(岡崎優社長)が、本別中央小学校グラウンドの暗きょ排水工事を実施しました。これは、同校グラウンドの水はけが悪いことから地域貢献活動の一環として実施されたもので、全長160メートルにわたる工事は職員6人によって、丁寧に施されました。



## ファミリーデー 7/4

家族と一緒に遊びに来られるようにと日曜日に施設を開放する「ファミリーデー」が7月4日、子育て支援センターで開催されました。4組12人の親子が参加し、おもちゃなどを使いながら子どもとの時間を楽しく過ごしました。



## 農大祭 7/4

第37回農大祭(大友詠吉実行委員長)が7月4日、北海道立農業大学校(鞍懸周校長)キャンパスで開かれました。今年は「夏だ!祭りだ!!オレらの出番だ!!!」をテーマに、町内外113の企業や商店が協賛。「観客の皆さんも一緒になって楽しめる華やかな農大祭」を目指し、たくさんの催しが行われました。農大で作っているアイスクリームやソーセージの販売、農大和牛の焼き肉などで多くのお客さんを出迎え、会場を訪れたたくさんの人たちは、盛りだくさんのイベントを楽しみながら、心もお腹も満腹にしていました。



## 前田敏男さんに叙勲 7/7

町内北3丁目の前田敏男さん(85)が紺綬褒章を受賞し7月7日、役場で高橋正夫町長から勲記と勲章が伝達されました。これは、町国保病院の医療機器導入に多大な貢献をされたことが認められたもので、前田さんは「表彰は生まれて初めてのことで感謝している。役に立ててうれしい」と喜びを語りました。3月に導入された視野を正確に計測する機械は、4月7日から検査が開始され、約50人が検査済み。現在約80人が予約待ちの状態、有効に活用されています。



## 本別公園を 緑いっぱい 7/9

7月9日、本別町林産振興会(星崎敏雄会長)が、本別公園にしゃくなげ10株を植樹しました。これは本別公園の緑化を目的に毎年行われているもので、参加した会員9人は手際よく丁寧に植樹しました。



## 子育てママさんの交流会 7/12

家庭教育支援事業「なかよし」による子育てママさん交流会が7月12日、健康管理センターで町内と足寄町から10組22人の親子が参加し開催されました。あいにくの雨で噴水での水遊びは出来ませんでしたが、すいーとぼてと(村上裕子代表、会員4人)による読み聞かせやエプロンシアターを楽しんだほか、互いに自己紹介をして交流を深めるなど楽しい時間を過ごしました。



## 全道大会でも頑張ります 7/14

標準記録突破や上位入賞で全道大会に出場する本別陸上少年団(中山智洋代表)と本別水泳少年団(及川哲夫代表)などの選手15人が7月14日、教育委員会を訪れ全道大会への出場報告をしました。子供達は「全道大会では上位入賞を目指したい。自己記録を更新したい」などと力強く抱負を語りました。全道大会は水泳が7月17日、18日に江別市で、陸上が7月18日、19日に北見市で開催されました。



全道大会に出場した陸上(写真上)と水泳(写真下)の選手たち

情報を広報担当へお寄せください  
022-8121

# 未来に輝く 子どもたち

本別町の未来を担うかわいい星たちです。  
お父さん、お母さんのたくさんのお愛に包まれてすくすく元気に育ってね!



北三丁目  
久江 ともか ちゃん  
(美和ママ)



南二丁目  
井出 秀宜 くん  
(真由美ママ)

※写真は本人に了解を得た上で掲載しています

## 100歳長寿おめでとうございます 町敬老祝い金の贈呈

本別町負箆2の西谷ソノエさんが7月1日に100歳を迎えられ、高橋正夫町長から敬老祝い金(10万円)が贈呈されました。ソノエさんは明治43年7月1日本別町で生まれ、昭和3年に故末美さんと結婚。家業の農業を営みながら男2人女5人のお子さんを育て、孫13人、ひ孫19人、やしやご2人に恵まれ、現在は長男の輝夫さん、俊子さん夫婦と孫の浩美さん家族の8人暮らし。長寿の秘訣は、好き嫌いせずなんでも食べて、毎日散歩をすること。100歳を迎えたことにソノエさんは「今日はとってもうれしい。まだまだ長生きしたい」と笑顔で話してくれました。



## ご寄付ありがとうございます 平成22年6月22日から7月16日

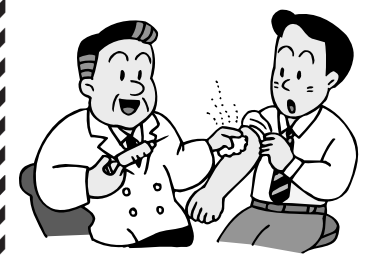
次の通りご寄付をいただきました。  
紙上をかりて厚くお礼申し上げます。(敬称略)

- ★本別町老人ホーム指定  
タオル 115本 ..... 匿名(2人)
- ★本別町特別養護老人ホーム物品購入費指定  
金50,000円 ..... 追名牛 井出正實
- ★本別町消防署指定  
ウエス 50枚 ..... 清流町 種池古物店 種池雪雄

# みんなの健康

312

## インフルエンザワクチンの 季節がやってきました



インフルエンザワクチンの季節がやってきました。昨年の今ごろは新型インフルエンザの流行でワクチンが間に合うのか気をもんでいたころです。今年も、今シーズンは季節型のワクチンに最新のワクチンを加えた型となり、一回の接種(子供は二回)で済みますのでぜひワクチンの接種を受けるようにしてください。昨年の新型インフルエンザは弱毒型で重症患者の数は多くありませんでしたが、感染力は強く、学校を休んだ児童の数は過去数年の五倍あまり

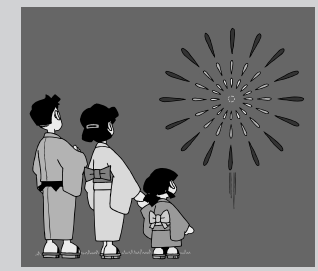
になりました。また、強毒型への変異や強毒型の鳥インフルエンザの流行も考えられるため、まだまだ油断は出来ません。話は変わりますが、肺炎球菌ワクチンの使用方法がわかりましたのでお知らせします。昨年の十月に用法が変更になり再接種は不可(一度しか接種できない)から、接種から五年以上経過した場合は医師の判断により再接種が可能に変更されました。当院でも八十六人が接種をうけています。もし再接種の希望があれば担当の医師に相談してください。また、今年の春から子供の肺炎球菌ワクチンが日本でも使用できるようになりました。今まで使用してきた肺炎球菌ワクチンとは菌の種類・数、使用方法、使用目的がまったく違うものですので、間違わないように注意してください。風邪(インフルエンザを含む感染症)の予防の基本は手洗い、うがい、そしてワクチンの接種です。今年も元気に冬を楽しみましょう。

本別町国民健康保険病院  
薬局長 多賀榮一

## 足寄町

### 第31回 足寄ふるさと盆踊り 両国花火大会

盆踊りや花火大会などさまざまな催し物で皆さんをお迎えます。ぜひご来場ください。



□とき 8月15日(日)

□ところ 足寄町民センター前駐車場および利別川河川敷

□内容 ステーション

- 13時10分ー 子ども縁日
- 14時00分ー セレモニー
- 15時30分ー もちまき
- 17時30分ー みんなで楽しむ足寄音頭
- 18時15分ー 子ども盆踊り
- 19時30分ー 仮装盆踊り、素踊り
- 20時40分ー 両国花火大会

□詳細 足寄町役場経済課林業商工観光室  
☎2512141 内線253

## 陸別町

### 銀河の森コテージ オーナー募集

満天の星空のまち「りくべつ」で自分専用のコテージを建設してみませんか?  
建物はオーナー様自身のものとなり、オーナー様がご利用されない時



はレンタルコテージとして運用し、その利益をオーナー様に還元します。陸別町では、建設費として200万円を助成します。詳しくは、お問い合わせください。

□問い合わせ 銀河の森天文台  
〒089-4301 陸別町宇遠別  
TEL 271-8100  
FAX 271-8102  
E-mail: ginga@rikubetsu.jp



ー足寄町・陸別町からー



# 夏休みは 図書館におまかせ!

## 夏休みおたすけコーナー

### お誕生

6月後半から  
7月前半の  
届出分

井出 秀直<sup>しゅう きく 力 きん</sup> 6/13 南2丁目

荒川 美玖<sup>み く 洋平 寿恵</sup> 6/16 山手町

岡崎 颯斗<sup>はや と 貴司 然絵</sup> 6/18 錦町

加藤 艾琉<sup>たい る 雅彦 由紀乃</sup> 7/3 北6丁目

### ご結婚

(廣瀬 悦久<sup>ひろせ えく</sup> 中学校  
河野 都<sup>かの みよ</sup> 岩手県)

### おくやみ

瀬賀 啓子<sup>せが けいこ</sup> 70歳 6/19 栄町

鈴木 登代子<sup>すずき のぶこ</sup> 67歳 6/24 北8丁目

井出 萬一<sup>いだし まんいち</sup> 103歳 6/25 追名牛

江本 藤枝<sup>えもと とうえだ</sup> 81歳 6/25 上本別

野村 義明<sup>のむら よしあき</sup> 74歳 7/4 北8丁目

佐川 みよ<sup>さかがわ みよ</sup> 95歳 7/7 活込

木村 勇<sup>きむら ゆう</sup> 81歳 7/8 栄町

河原 つよ<sup>かわはら つよ</sup> 93歳 7/10 南1丁目

今年の夏休み、  
課題はなんですか？  
自由研究、工作は  
進んでいますか？  
読書感想文、  
困っていませんか？

図書館には、  
ヒントになる資料が  
たくさんあります。  
きっと何か  
見つかるはずです。  
うまく利用して  
夏休みの後半を  
楽しくスッキリ  
過ごしましょう！

おたすけコーナー以外にも、  
調べ学習の本、  
郷土資料など、  
役立つ資料があります。  
気軽におたすねください。



読書感想文におすすめ！  
課題図書・指定図書



辞典、百科事典がいっぱいの  
レファレンスコーナー



夏休みおたすけコーナー

### わたしたちのまち

前月比

人口 **8,478人(-10)**

男 **4,185人(-6)**

女 **4,293人(-4)**

世帯数 **3,941戸(+3)**

〔6月末日住民基本台帳〕

お問い合わせ先

**本別町図書館**

(愛称：ぶつくる一丸)

本別町北2丁目 ☎・FAX 22-5112